日向植物地理概論

田代善太郎

我国は四面海を繞らすより南北の暖寒両海流の影響をうけ温度に湿度に気候に変化を生ずること少からず、植物地理上に関係すること亦多し、日向は東を受けて暖流の影響多きも寒流とは遠く隔離するが故に高等植物にては殆んど其影響を受けたる植物の分布を見ず。而して日向は南北に長く、北西隅には祖母傾及一帯の連山ありて豊後肥後の国境をなし、西部肥後との境には内大臣山の連脈、江代、市房、白髪、矢岳等の山彙及其連脈ありて薩摩との国境に及ぶ。南西大隅との境には、霧島山彙あり、又南海岸に並行する鰐塚、青井岳の連脈は南東部大隅との国境をなすものあり、中部には尾鈴一帯の山脈の横断するあり之を以て内国山岳多くしかも九州高山の殆んど大半は国境にあり峻岳若しくは高原をなす。平地は沿海地帯をあますのみなり、地勢此の如くなるを以て（6字不明）山地帯には、南北両系の植物少からず、北系植物のここに終り、或は隅薩に入りて共に終るもあり、阿蘇火山帯に接し久住亦近きが故に朝鮮由来系の植物にも接触して其幾分を保存し、九州南部の大火山にして高き霧島を有するを以て特殊の生態をなす植物もあり、しかも国内を斜行する九州山脈の地方は四国につづくを以て植物分布上の連絡頻る（3字不明）ここに特殊の分布系統をつくる、しかも南部の岬角及島嶼は隅薩につづく暖地性植物をうけてここに終るあり北部の島嶼より豊予土の地方其他に及ぶあり、暖地性植物は沿海地方に分布の段階をなし、また植物分布かくの如きを以て植物地理研究に重要なること多きも沿海地帯を除きては奥地は交通不便にて名ある高山の外は学徒の之を探究するもの殆んどなく不明瞭なるもの多きを憾となす、従来地方人にて知られたる若干の分布上の事実を以てすゆも研究上の興味頻る多く今回は之を発現するを得たる次第なり。

日向に於ける注意すべき沿海地帯及低地帯の暖地性植物

暖地性植物の西南島嶼より九州に入るや、其南部薩隅半島部に於て特に顕著なるものあり、日向南部都井岬地方及附近の島嶼は其幾分をうけて油津、鵜戸、内海、青島より中部の島嶼をへて之を北部島嶼、島の浦島に伝え更に豊予土の島嶼につづく、由来暖地性植物の分布は海流の影響によるものなるが故に、其種類は南北に於て段階をなして漸く減じ南ほど種類も量も多く又よく発育するものなり。よつて日向に於ける暖地性植物の分布は南部と其他とを区別するを得べし。

南部沿海地帯に於て注意すべき木本を挙ぐれば

ソテツ、ビロウ、サクララン、セウベンノキ、モクタチバナ、フヨウ、シマイヅセンリヤウ、サツマサンキライ、モクレイシ、ギヨクシンクワ、カウシウウヤク、ハドノキ、メジロホウヅキ、ハカマカヅラ、ノアサガホ、シラタマカヅラ

其稍内部の山林に入るものには

ナタヲレノキ、アデク、リウキウマメガキ、タニワタリノキ、ヘツカニガキ、ハクサンボクあり。

沿海性の草本には

グンバイヒルガホ、ホソバワダン、オホハマグルマ、スナゴセウ、シホカゼテンツキ、ハヒキビ、イハダレサウ、ノヂアフヒ

林野其他に入るものには

キバナノセキコク、アヲノクマタケラン、ヤツコサウ、オホアブラガヤ、オホカラスウリ、リウビンタイ、シロヤマゼンマイ、オホタニワタリ、ユノミネシダ、河川及沼沢地にはカハゴロモ、ミヅキンバイ

日向南部は勿論其他の地方にありても日向は一帯に暖地性の常緑濶葉樹及之に伴う木本植物多く落葉樹は少なし、特に海岸に限るものにては、アカウ、ハマヒサカキ、ハマビハ、発育よろしく、諸所にハマナツメ、ハマボウの散在を見る、其他にありては、クスノキ、タブノキ、イスノキ、イチヰガシなど発育旺盛にしてヲガタマノキ、ナギ、ツゲモチ、マテバシヒ、サザンクワ、（豊後南部に止まるが如し）ミサホノキ、アヲギリ、サンゴジユ、ヤマビハ、シヤリンバイ、バクチノキ、バリバリノキ、ヤマモガシ、トキハガキ、クロキ、ミミズバイ、ボロボロノキ、カンコノキ、クスドイゲ、モクコク、クロガネモチ、ハクサンボク、コフヂウツギ、ヤツデ、ルリミノキ、サツマサンキライ、シロバイ、ヤブツバキ、ヤブニツケイ、クロバイ、タイミンタチバナ、ユヅリハ、ヒメユヅリハ、オホバヤドリギ、ホソバイヌビハ、イヌビハ、クチナシ、カゴノキ、クワクワツガユ、テリハツルウメモドキ、キダチニンドウ、ハマエンドウ、オホイタビ、ワセオホイタビ、フウトウカヅラ、サカキカヅラ、ホウライカヅラ、ヒメイタビ、イタビカヅラ、カギカヅラ、シタキサウ、キジヨラン、ハスノハカヅラ、ウドカヅラ、テイカカヅラ類、オホバウマノススクサ、ヒゼンマユミをまだ見当らぬ、クヅ旺盛なり。

草本につきては沿海地方には

ハマアザミ、ハマウド、ボタンバウフウ、キンギンナスビ、キキヤウラン、スイセン、イワタイゲキ、ソナレムグラ、ハマナタマメ、ノシラン、ツルソバ、アフヒゴケ、コアマモ、ヒゲスゲ、キシウスゲ、トキハススキ（多く栽植にて判然たる自生を見ず）

其林野其他に入るものは

カンラン、ツチトリモチ、モロコシサウ、ヒメノボタン、ヒメノハギ、ホソバヒメトラノヲ、シマキツネノボタン、ルリハコベ、クマノギク、シマニシキサウ

其沼沢地等の水湿地にあるものには

スヂヒトツバ、アミシダ、ホングウシダ、エダウチホングウシダ、オホミツゲ、オホカグマ、ナチシダ、ナチクジヤク、シロヤマシダ、オニバス、ミヅキンバイ、ミヅスギ、ムカデトンボ、ヌマダイコン、ヲギノツメ、セイコノヨシ、スキラン、サハトラノヲ。

日向山地に於ける注意すべき南北両系の固有日本植物要素

本州中部山地の北系植物を受けたる大和の諸峯を四国の脊梁山脈をへて之を九州の山地に伝ふるが故に祖母山及傾山彙と其連脈内大臣山の連峯、市房山の連峯、霧島山彙さては尾鈴山彙等には南部相当の北系植物あり。又之を薩摩大隅に伝ふ。九州に於ける南系植物の四国其他に連続するは亦此経路に外ならず実にイチヰ、ハリモミ、シラベ、ウラジロモミの本州より四国へ分布する連絡は南北両系の系統を示すものなり、而して九州に於ては標高千メートル以上の上部高地帯即ち所謂ブナノキ帯には此等北系植物の外に、ミヤマキリシマ、ツクシドウダン、ヤウラクツツジ、キリシマウツギの如き九州固有の南系植物若しくは之に若干の北系植物を混生す。

今南北両系の注意すべき植物を各別に挙ぐれば裸子植物にては北系にイチヰ、シンパク、南系にモミ、ハリモミ、ツガ、クロマツ、アカマツ、ヒメコマツ、カウヤマキ、及カヤ、イヌガヤ等あり。

イチヰは九州の諸高山に産し、祖母山、傾山彙には諸所に点在し、霧島山彙より大隅の高隈山に及ぶ、シンパクは日向には更に広く存するも高隈山に及ばず、戸川岳に産する如きはおそらく他に比類なかるべし。

モミ、ツガ、クロマツ及ヒメコマツは九州各地に多く、日向にはそれぞれの美林あり、霧島山に於けるアカマツの如きは見るべきものなり、ハリモミは祖母、霧島両山彙に之を産し、霧島に於けるモミとの混生林は日隅両国に跨り美林として之を挙ぐるに足る。

ハリモミの分布線は九州四国、近畿、東海関東の表日本諸山地を連絡する例として、顕著なるものなり、カウヤマキは日向山地を挙げて之を産し大隅に及ぶ、其林木としても大木としても壮観を呈するものは米良にあり、此植物はハリモミの如く縦に表日本各地方を縫うて分布するが更に進んで岩代に入るものあり、中部にては横行して美濃、飛騨に分布しまた越前、若狭、丹波、摂津、（播磨との境）にあり又離れて安芸にあり、アスナロは東西臼杵の地に点在するものの如くここにも四国との連絡を見る。

カヤは日本の南部に広く分布するものなるが日向の産は碁盤用材として有名なり、イヌガヤもよく発達す。

次に被子植物中の木本につきて北系植物を見れば九州に其産地の南限をなすもの相当にあり、就中、霧島山は大隅南部の高隈山等と共に特に多し今其注意すべきものにつきて分布の概要をあぐれば

アサダ　祖母霧島両山彙

カシハ　南部諸地日肥国境に近く飯野越にある樹林は大正年間伐採を見たるも其後の発育は可なりときく

オニグルミ、サハグルミ　南北両地方の山地

ハルニレ　南北両地方の山地

オヒヨウニレ　の大樹は祖母山彙にはブンゴより之に及べるならんも未だ見出さず

エゾエノキ　北部山地

カツラ　北部南部の両山地、霧島南部の裾野に其南限を見る

タムシバ　北部山地、中部尾鈴山

コブシ　日向より薩隅に及ぶ

ウハミヅザクラ　北部山地より霧島山の北部に及ぶ

キハダ　北部山地に多く霧島山及青井岳を産地の南限とす

クロヅル　類品の霧島及大隅諸山の産は別種となりたるにより、祖母山彙地方を南限とする

トチノキ　九州にては稀に北部山地に点在し日向北部に稍散在するを見る

ヤマウルシ　祖母、尾鈴、霧島、諸山彙にあり

ケンポナシ　北中部、南部にて自生するものの如し

シナノキ　北部より南部の脊梁山脈に亘りて之を産す

コシアブラ　山地に散在し霧島山及肥薩国境地方を南限山地となす

ハクウンボク　山地にあり霧島山彙地方青井岳を以て南限山地となす

ヤブデマリ
オホカメノキ
ミヤマシグレ
ミヤマガマズミ
コバノトネリコ
} 南北両地方の山地

此外日薩隅の山地に亘りて産するはハンノキ、ヤマ

ハンノキ、ヤドリギ、ホホノキ、ツタウルシ、アヲハダ、ツルマサキ、大隅の高隈山に及べるは、マンサク、ゴマキ、外に祖母、市房の峯頭には、クロイチゴ、コメツツジあり。

北系植物の草本は前者に比して更に多ければ今は特に注意すべきもののみをあぐべし、祖母山彙地方の産地の南限とするものにメタカラコウ、ミヅモトサウ、シヨウキラン、カリガネサウ、ソバナ、（肥後球磨郡の山地にも及ぶ）クガイサウ、ヤマルリトラノヲ、エゾルリトラノヲ、ハナシノブや、シヲンあり、後の三者は阿蘇火山裾野の祖母山彙に接触する地方にあり。シヲンの如きは此地帯と久住山裾野の外には邦内備後仙養源に産するを知るのみ、北部山地の洞嶽其他にウスユキサウあり、東臼杵郡江田にチヤウジサウあり、祖母山彙より市房山彙、尾鈴山彙に及ぶものにクロクモサウあり霧島山彙の栗野岳、大隅側や薩摩大口地方に及ぶものにノハナシヨウブあり、更に広く薩隅に及ぶものにカノコサウ、サハギキヨウあり、かつては真幸停車場附近に野生ありき形態色彩の他に於ける異なるが如し分布の範囲広々として量も多く地理的分布より考えて注意すべきものにサクラサウあり、フクジユサウあり、サクラソウは九州にては阿蘇火山脈一帯、特に豊後に多きものなるが日向にては北部西臼杵郡の山地に多くまた霧島高原地方及諸地方に多し、フクジユサウの分布も略同じく、阿蘇外輪山の南部裾野近地の（3字不明）に続く地方に多し。

羊歯類にてはシラネワラビは祖母山彙より市房山彙に及ぶも霧島山彙に来らず、ミヤマシケシダは僅に之に及ぶ、オホミヤコジデンダ、ホテイシダは北部より中部に及び、ワウレンシダは北部に止まるも肥後球磨郡の石灰岩地にあり。

次に大陸に分布上の連絡を有する朝鮮由来の草本を挙ぐれば九州に広く産するノヒメユリ、各地の原野にあり、阿蘇火山脈地帯に接触する地方に僅に存するホクチアザミも同じく九州原野に、九州北部より阿蘇球磨の地方を経て霧島に来るものにハナカヅラあり、同じく阿蘇火山脈地帯より霧島高原地方に入り大隅肝属半島に及ぶものにルリヒゴタイ、ノヒメユリとハナカヅラは九州に止まり、ホクチアザミは九州より僅に四国に入るのみなるが中国にては脊梁山脈等にひろく分布し、遠く離れて三河に及ぶ。ルリヒゴタイの分布線は、対馬より邦内に入るものに、肥前五島列島に及び他の一支は中国脊梁山脈をへて備後に及ぶ。

洞岳及白岩山に産しまた肥後仰烏帽子岳に産するイハギクは白山々彙に産するものと同じきが九州薩摩磯間岳にあり、又肥前平戸に産する類品テフセンノギクと云ふも同種なるべし。

ここに朝鮮由来の木本にて日向に入るものを挙ぐればナラカシハ南北両地方に産し、ノグルミも之を産するが如きも所在を明かにせず、ノヤナギは北部祖母山彙地方にあり、其宮崎地方に及ぶは注意すべき事実なり、アベマキは全く之を存せず、此等の植物の邦内に入るはノグルミは四国中国を通じ近畿地方に及びナラカシハは之に同じく其北進は殆んど近畿を離れず、ノヤナギは四国と中国とに僅に存するのみ、コバノテフセンエノキは中国全体にあり独り九州の高山に及ぶものにキリシマウツギあり、鮮満国の地方の高山の産にしてニシキウツギに似て花鮮紅色なり、阿蘇火山脈中の高山より祖母山彙、内大臣山彙、市房山彙に亘りて之を産し亦霧島山に産す。

今固有日本に於ける南系要素を述ぶるに当り、まづ今までに知られたる日向に産する九州特産の植物を叙すべし、九州特産植物は、なかなか多い喬木性のものはなくて灌木や草本であるのは注意すべきことなり。

今分布区域を主として草木を分たず之を述ぶれば、日向中部より薩摩北部肥後天草島に分布するものにヒナウツギあり葉硬く花も実も小にして多し。

肥後の阿蘇火山脈地方より豊後のそれに及び豊前の一部にも及ぶものにツクシトラノヲ、アソノコギリサウあり其一部即久住山彙の一局部と由布山彙の一局部に存するものにケクガイサウあり、いづれも祖母山彙の阿蘇外輪山麓野に接触する地方に分布するものなり。

久住山彙によく発達する植物にて祖母山及傾山にあり内大臣山及市房山に亘りて之を産するものにツクシドウダンあり、其分布は、キリシマウツギの産地より霧島山を除きたる産地にほぼ相同じ。

祖母山上にあるヤウラクツツジは久住山にもあり遠く屋久島にも分布する注意すべき種類なり。

九州以北の山地（肥前を除く）に分布し霧島の北麓を南限とするものにツクシシホガマあり。

九州南部の山地肥日隅に亘りて産するクロヅルの小型にコバノクロヅルあり、之とほぼ分布区域を同うして薩摩に及び或は以南に、或は以北にあるものにウスバイヌツゲ、ヒメテンナンシヤウ、タウヒゴタイ狗留孫山、ツクシタチドコロ、タカクマヒキオコシ、マルバテイシヤウサウ、モミヂカウモリあり後の二者は後頃に述ぶるハナカカシの薩日に於ける分布を範囲を広くして、之に大隅の一部と肥後の一部とを加えたるものに等しく日向にては主として中世代地層の地にあり、モミヂカウモリの高隈山より鹿児島湾を越えて、薩摩の烏帽子岳に及ぶは興味ある事実なり、右の区域内の日向にのみ特に発達し而も其量の多きキバナノホトトギスの如きは珍重すべき植物なり、之と最も相近

似せる大隅高隈山のタカクマホトトギス、屋久島のチヤボホトトギス、四国、近畿、東海道東部のチヤボホトトギスとを続けて考ふれば近類のもの表日本を貫きて分布するを知る。

此等とは稍異なり土佐と紀伊とに産する、ヂヨウラウホトトギスに類するキバナノツキヌキホトトギスを尾鈴山彙地方に産するはおもしろし。

日向特産植物中の尤物はノカイドウなり、ツクシノキシノブも亦日向に於ける特産なり最初霧島山に採集せられて其名を冠するものにキリシマシヤクジヤウあり、日薩隅にわたりて産する外肥前五島の福江島にあり、屋久島にもあり、キリシマヒゴタイ（祖母にもあり）キリシマガリヤスは霧島山に多く、それぞれ其名を得たるものなるが、ツクシテンツキの阿蘇久住の火山地方に産し雲仙嶽にも及べり。

九州東南西の沿海地帯より稍奥地に入りても産するものにツクシアカツツジあり、ヲンツツジと合せ考ふれば四国と紀伊とにつづく九州中部以南の高山に発達更に分布区域を広くして雲仙嶽、多良岳に及べるものにミヤマキリシマ、ツクシグミ（英彦山御前岳）ツクシアザミあり、九州高山の特産と思はれたる、ツクシゼリが美作蒜山にあり阿蘇火山脈地方より祖母山彙にわたりて産するのみなるヒロハヤマヨモギが備後石見に及ぶは注意すべき事実なり。此外九州に亘りて広く産するものにツルカウゾ、トラノヲスズカケ、九州固有植物にはあらざるも南系要素中、九州に限りて生ずるものにアヲカツラあり霧島に多し、九州より中国の中部に及ぶものにシヒモチあり、日向中部より豊後南部に亘りて産し相接する四国の伊予土佐、遠く相対する安芸周防の地方に分布するものにフヂツツジあり、

日向沿海より北して豊後をへて東して伊予より土佐にのび北して豊予海峡を入りては国東半島、周防安芸や伊予、播磨、摂津に分布するノヂギクあり、之は隅薩及肥後の南部にも分布す、類似のもの種子島、屋久島、奄美大島、沖縄にも及ぶものあり。

日向に産する南系要素中には関西地方に亘りて分布するものあり東海道さては関東地方に及ぶものあり更に北するものあり、其中には四国にのみ連絡を存するものあり、近畿まで表日本の山地に分布上の連絡するものあり、之を東海道さては関東に延長するものあり、而して九州には全部に通じて分布するあり又然らざるあり、四国に連絡するものに（九州普通）トサノミツバツツジ、（薩隅よりつづく）オホクサボタン（久住山土佐）イハガネ、シコクスミレ、ミヤマコナスビ、ヤナギアザミ（九州普通）タカネオトギリ、ウバタケニンジン（伊予赤石山にあり）オナガウラボシ、表日本の山地を近畿に及ぶものに、アケボノツツジ、ヘラノキ、ヤハズアヂサヰ、モツコバナ、スギナ（九州にては僅に日向に存するのみ）あり。ヘラノキは九州につづく防長二州にあり、此類の草本には注意すべきもの多し、キレンゲシヨウマ、センダイサウ、イハザクラ、ハガクレ、ツリフネ、ケイビラン、キバナチゴユリ、ヤマヂワウ、タニジヤカウサウ、シモバシラ、シタキソウ、ツクシチヤルメルサウ、ガンセキラン及ホシアイ（四国に終るか）ムカデラン、ホンゴウサウ、ヤツシロラン等是なり、

東海道若くは其以北に及ぶものには木本にヒメシヤラ及ヒコサンヒメシヤラ、ヤシヤブシ、ウバメガシ（海岸に多）イブキビヤクシン、ガクウツギ、ヒカゲツツジ等あり、草本にフクワウサウ、（陸中まで中国にも産す）ヒメカウモリサウ、テバコモミヂガサ、アハモリシヨウマ、シラン、ハマアザミ。

関西地方を分布範囲とする日向産木本にて果樹原本其他注意すべきもの少からず日向は日本に於ける此等樹木の宝庫なるべし、今重なるものを列挙すれば

モモ——日向には山地を通じて殆んど産すケモモあり、ツバイモモあり、対馬に之を産し九州には豊後、豊前、肥前、中国には備中、播磨にあり近畿にては摂津及伊勢にあり。

ウメ——も広く日向に産しまた豊後にも自生せるものの如し、広く産するならんも未だ明かならず。

ツクシヤマナシ——ナシの野生種、日向北部に産す、其他、山を隔ててつづく豊後因尾溪に群落をなすと云うナシも恐らく此種なるべしナシの類は中国其他に多し。

ネヅ——日向北西部の山地にひろく産するが戸川嶽の産は無数と云ふべし備中に産し、また土佐安芸に産す。

チヤ——九州主部における諸山と共に之を産す、日向山地にて古来之を製茶の材料とする所の多かりしは人の知る処なり。

タチバナ——屋久島、種子島各沿海の暖地をへて九州に来り一は東して日豊国東半島をへて伊予土佐及紀州につづく、他は西して九州の北をまわり長門の萩に及ぶ且市来村の産地は其量に於ては邦内第一なり。

（昭和17年9月2日稿）